

南アフリカ 生食用ブドウシーズンが早期に勢いを増す

[FreshPlaza 2025年11月25日](#)

南アフリカの2025年生食用ブドウシーズンは第46週(11月上旬)までに勢いを増し、北部諸州とオレンジ川流域の産地で梱包が進んでいる。全体として、梱包量は昨年より多いものの、輸出量は依然として少ない。第46週までに、前年同期の77万225箱より24%多い95万8,421箱が輸出検査を受けた。一方、輸出量は2万9,320箱で、前年同期の14万3,024箱に比べて80%少ない。

各産地は依然としてシーズン序盤であるが、作柄予測を維持しており、好条件が続ければ当初予測を達成または上回る可能性があると報告している。全国の予測総輸出量は7,940万箱で、昨シーズンの輸出実績より0.6%多い。主な輸出品種はアーリースイート®、スター・ライト及びプライムであり、大半はEU向けである。輸出の大半はコンテナ船サンタテレサ号で運ばれ、追加の貨物は航空便で送られた。第47週にはワーレジエンス号及びヒュンダイシンガポール号の出航が予定されている。

北部諸州では、第46週までに前年同期より45%多い90万790箱が梱包された。ブドウ園は健全であると報告されており、収穫量は昨シーズンより約15%多いものと見込まれている。トーニーシードレス及びアップル29の梱包が第47週に開始される予定である。

オレンジ川流域では5万7,630箱が梱包され、前年同期比で61%減少したが、ブドウ園の状態と果粒の発育は良好である。オリファンツ川流域ではシーズン初期に不均一な発芽が見られたが、開花は良好でブドウの蔓も健全であり、梱包は3~4週間後には始める見込みである。ベルク側流域及びヘックス川流域では収穫の準備中であり、ブドウの蔓の生育は良好で果房の発達も健全である。

南半球の供給国の中では、ナミビアが第46週までに前年同期比24%減の97万8,529箱を輸出用に梱包した。チリは第47週に輸出を開始する予定であり、作柄予測は6.9%減と見込まれている。ペルーの生食用ブドウ予測出荷量は1億5,600万箱に増加し、第46週までに前年同期比6%減の2,920万箱を輸出した。

シーズン初期の風と霧により、11月初めからの3週間にケープタウン港のコンテナターミナルで累計193時間の遅延が発生し、風対策の改善が必要であることが浮き彫りとなった。同港では新しいゴムタイヤ式ガントリークレーンが導入されつつあり、第46週には1時間当たり17回のクレーン作業が達成された。運輸公社(Transnet)は、落葉果実輸出シーズンを支援する設備の準備状況の改善、連絡体制の強化及び鉄道利用の増加を強調した。

詳細については南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)まで

(原文記事中の重複個所を整理しました。)